

芦安中学校（後期）自己評価書

平成28年1月14日
南アルプス市立芦安中学校
校長 中込 幸二

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケート及び保護者対象アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月7日）

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 教育目標

〔達成状況〕

- ① 本年度夏季休業以降の教育活動を振り返った時、各活動が学校教育目標に沿って実施されており、行事等も3年の入試関係や年度末関係を除くと、この2学期末までで主要なものを無事終了した。成果や達成状況も個々の事後アンケートや感想から読み取ることができるが、前期と比べても概ね良好な状況にあると言えよう。昨年度同期と比較しても評価は高くなっている。すなわち改善が進んでいると言えよう。

〔改善策〕

- ① 格段に劣る分野が見当たらないが、細かい点まで見ていくと課題もある。今後とも学校教育目標を全教職員が意識し、その目標の達成に向けて、小規模校のデメリットをメリットに転換させながら、「芦中教育」としての日々の教育活動を組織的・継続的に取り組んでいきたい。

(2) 学校運営

〔達成状況〕

- ① 「校務分掌」の機能については、前期に比べまた前年と比べても改善されてきた。少ない教職員でいくつもの分掌を抱え、不慣れな部分があった影響と推測されるが、わかっている教職員のリードや協力さらに臨機応変的な対応の成果と思われる。「職員会議」についても学校運営上ほぼ適切に運営されている。
- ② 校内研究については、3つの柱（学校教育全体を通したコミュニケーションづくりの推進、英会話科の推進・発展、コミュニケーション活動を重視した各教科授業の工夫と基礎学力の向上）を中心に取り組んでいる。

「コミュニケーションづくりの推進」では、スピーチ発表とそれに対するコメントや「絆の集い」などの企画を通して、他者とコミュニケーションづくりに取り組んでいる。スピーチ内容が濃くなったりコメントがしっかりできるなど『双方向』での進歩が認められる。一方、聞く側への配慮や内容等は工夫や改善を意識して行わないとマンネリ化し、モチベーションの低下する恐れもある。

「英会話科」ではほぼ予定通りの取り組みができ、教職員も加わって楽しく賑やかに英会話活動に親しんできた。生徒の英会話科に対する意欲や姿勢は良好と言える。事前の指導案検討など従来

通り全教職員が関わりを持って取り組んだ。復習を行ったりまとめのプリントを活用するなどして、過去2年間の、あるいは小学校からの積み上げの成果をさらに発展させていきたい。

「コミュニケーション活動を重視した各教科授業の工夫と基礎学力の向上」では、小規模校ゆえに表現活動や言語活動といったコミュニケーション活動を容易に授業に組み込むことはでき、各教科「一人一実践」や「授業改善」とからめながら取り組んでいる。生徒数が少ない中、教職員が手をかけて学力向上に努めている。

「校内研究が日々の授業に活かされているか」、上記の様に日々の学校生活に直結する点が多く、成果や課題も日常話題となる。あまりにも日常的過ぎて認識されにくいのか、評価の数値も前期と同じであった。

- ③ 「報告・連絡・相談」は課題を抱えている生徒が多い中、メモ・板書・会話などの様々な方法でかなり機能していると言えよう。しかし、家庭も含めて個々の生徒の実態に深く関わるほど難しさを感じる。

〔改善策〕

- ① 2学期に入って新任職員や新たな校務分掌担当が馴染んできたのだと思われる。わかっている教職員のリードや協力、さらに臨機応変的な対応の成果であろう。信頼・安心の観点から生徒や保護者に支障を来すようなことは避けねばならない。教職員の意識と協力で取り組んでいきたい。
- 「職員会議」についても学校運営上ほぼ適切に運営されている。
- ② 毎日の生活の中に「コミュニケーション活動」や「英会話活動」・「基礎学力の向上」は必ずあり無意識のうちに取り組んでいる。気づいた事をどう改善したらよいかという、「解決・改善型」の視点を持ち、校内研で討議していくのが良いのでは考える。
- ③ 前期同様、職員室が授業や生徒の指導方針を共有できる場として、今後も機能させていきたい。

（3）学習指導

〔達成状況〕

- ① 「授業進度」については、教職員の「適当であるとはあまりそう思わない」という回答が「1」あったが、総じて前期と同じか、若干改善された様に感ずる。また昨年同期より全体的に良好であった。しっかりした授業計画と授業時間の確保の結果と思われる。また、これは生徒の「意欲的に取り組んでいますか」や「授業はわかりやすいですか」の結果にも影響を及ぼしてくると考えられる。
- ② 授業に関して、全体的に前期より向上傾向が認められつつも、生徒には一部否定的な評価も見られる。「授業には意欲的に取り組んでいますか」の問いについて前期比・昨年同期比で向上傾向が認められる。「授業は、わかりやすいですか」・「授業でわからないことがある時は先生に聞いていますか。」についてもほぼ同様で、向上傾向が認められる。

「道徳」・「総合的な学習」・「英会話科」については、評価の数値の変動が認められ、下降傾向と言えなくもない。「、、、意欲的に、、、」の質問内容で判断したのかもしれない。教職員回答では顕著な変動はなく、生徒に力をつけさせるために、考えさせるために日々取り組んでいると言える。

- ③ 授業の深化や発展を考えると、大きなくくりでの「授業改善」と言える「課題解決的な学習」や「学び合う学習」の推進が大切であり、特に昨年度来の課題でもあった。「学び合う学習」については、教職員が1学期（前期）に比べて意識して授業等を行い、生徒もそれに沿って授業に取り組んでいた様子分かる。理想的な展開と言えよう。なお、「生徒が主体的に学ぶ課題解決的な学習を行っているか。」とも併せ、昨年同期よりも肯定的数値が上がっており、授業や意識の改善が図られていると言えよう。
- ④ 「個に配慮した授業」も少人数の環境下だから推進可能ではあり、各教科共に最大限の配慮のもとに取り組んでる。別室登校の生徒にも手分けして取り組んできた。一方で保護者や生徒はまだ不十分と捉えている節も感じられる。限られた時間の中なので、どうしても限界はある。

〔改善策〕

- ① 学習指導と学力向上は表裏一体であり、意欲喚起を推進する一方で「授業改善」として成果が認められ始めた「課題解決的な学習」や「学び合う学習」のさらなる推進と、学力向上に努めていきたい。具体的には校内での授業参観を通しての課題の洗い出しや先進校や改善例などを参考に、本校の少人数授業用に改善するなどが考えられる。なお、全国や県の学力調査の結果等を分析し、生徒個々と本校の課題を把握する中で取り組むPDCAサイクルの手法は従来通り継続と考えている。
- ② 基礎学力の定着を図るために、まなびの時・放課後の補習の充実や保護者と連携し家庭学習の習慣化を更に図っていく。

保護者アンケートの「お子さんは家庭学習をしていますか。」では、昨年同期より明らかに改善されている様子は窺える。それでもまだ「いや、それほど家庭学習しているとは思わない。」という回答もあり、保護者との連携を進める中でより良い方向へ向うことができればと思う。

（４）生徒指導

〔達成状況〕

- ① 学校生活について「明るく楽しい」と感じている生徒は、前期とほぼ同様。「楽しいと思っていない」生徒もいるが、数は減っている。保護者の回答にも「あまり楽しいと思っていない」回答が「1」あり、自分の子どもを基準としての回答だろうと推測されるので、生徒と同じ様に感じていることがわかる。教職員は全員が肯定的な回答。これは生徒全員を見た上で判断しているためと言える。
- 「いじめや仲間はずれ」に関しては「された・した」共になく、後期は生徒間の関係はほぼ良好で平穏であったと言えよう。ただし、一時的なトラブルやからかいの類、あるいは不用意な言動から気まずい関係となるような事案は軽度ながら発生している。教職員も日常生活の中で把握・報告、その都度指導を行ってきている。『いじめは断固許されることではない』との未然防止の取組を堅持したい。
- ② 「学年に仲良くしている友だちがいますか」については、未回答が「1」あるが、前期同様全員「いる」と回答している。また「困った時に相談できる友だちがいますか」の設問には「いない」の回答「1」以外は全員「いる」と回答している。一方、「困った時に相談できる先生がいますか」

の質問では、「いない」と回答する生徒が3名と、前期より増えている。これは昨年度前期の調査でも同様の回答状況があり、自力で対処するので『必要ない』と考えているのか、『必要だけれど本当にはいない』のかの実態までは把握できていない。

- ③ 「気持ち良いあいさつ」・「適切な言葉づかい」について、教職員側は前期同様しっかりできていると評価している。授業をはじめ行事等においても実感する機会が多々あった。生徒の回答も概ね良好であった。さらに、両者ともに昨年度より数値的にも肯定的な回答が増しており、「改善すべき点」として取り組んできた成果と言えよう。なお、保護者アンケートの「家庭内では互いにあいさつをしていますか」・「お子さんは適切な言葉遣いで生活していますか」においても、前年度より肯定的な回答が認められ、総じて好ましい状況にあると思うが、一部家族への不適切な言葉遣いがあるようだ。今後も生徒への自覚を促しつつ、定着化・習慣化を目指して取り組んでいきたい。

〔改善策〕 ※改善傾向が認められるので、改善策①・②は前期のものを継続

- ① 普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしておく。生徒の情報交換と指導方針を共有し合い、全職員で同じ歩調で対応していく。
- ② 適切でない言葉が発せられたときは、その場で指導する。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していく。更に、家族も含め「親しき仲にも礼儀あり」という事柄を折に触れて指導していきたい。
- ③ 教職員主導ばかりでなく、生徒個人及び生徒会などが「しっかりできているだろうか」「今の態度は好ましくない」など「自分たちにとって大切な問題である」という意識や自省の気持ちを育て、自分たちでも好まし方向へ向えるようにする。

（5）学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕

- ① 2学期最大の行事「白峰祭」・「芦安文化祭」は、生徒の意欲と計画的な取り組み、保護者並びに多くの関係者のご理解・ご参観により、盛会裏に予定通り実施することができた。生徒の心に大きな思い出として刻まれるだけでなく、成就感や自信として今後の学校生活に反映されることを期待したい。
- 教職員アンケート「行事は生徒の人間の力を育てるものとなっている」は全員肯定的回答で、前期並びに昨年度よりもその数値は上昇している。生徒の「学校行事には意欲的に取り組みましたか」も前期同様2名の「そう思わない」の回答があったが、肯定的回答は教職員と同様に上がっている。
- ② 「部活動」(1・2年)・「太鼓」(1・2年)・「合唱活動」・「生徒会活動」・「学校行事」についての生徒アンケートでは、肯定的評価のA・B評価の割合が前期同様に高い。意欲的に取り組んでいたと言えよう。ただし、いずれの活動においても、否定的な回答(D評価)の生徒が2名おり、これらの活動に加わることができなかつた気持ちについて対応していく必要がある。
- ③ 教職員も、諸活動の生徒の取り組みに対する評価はおおむね肯定的で、その成果も期待している。素直さや前向きさは十分に認められるので、自律性や主体性・自主性あるいは企画力・先見性など

を今後求めたい。

〔改善策〕

- ① 前期自己評価書で登山について、「登らされている登山」でなく、主体的に登山に臨めるように、実行委員会を設けてトレーニングや学習に取り組む体制はできている。と述べた。このように、時間や手間もかかるが、自律性や主体性・自主性を育て、成就感や自信、さらに自己肯定感の向上のためにも、このやり方が最良と思われる。ただし、マンネリ化を回避するためには「去年とおなじ」・「今までこうやっていたから」ではなく、PDC Aサイクルの仕組みを活用していきたい。
- ② 日常の学習や諸活動の中で、現状に満足せずに「最良・最高は何か」を意識させる。さらに「先を見越すこと」・「結果や成果までの組み立て」といった企画力や先見性を付けさせるためにも熟慮させることを取り入れる。また、「個に応じた指導」も一人ひとりの生徒の実態に応じた指導や支援を今まで以上に展開していきたい。

〔6〕家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

- ① 4月の授業参観から始まり、学校林の植樹・災害時の引き渡し訓練・教育を語る会・全校登山の支援・PTA奉仕作業・白峰祭・芦安文化祭等、多くの保護者の参加・出席を得て、芦安中の特色や良さを理解していただき、感謝すると同時に、学校に対する期待も大きいことを改めて実感した。これは「学校は授業や行事等において参観の機会を設けている。」と回答した保護者全員が評価していることからわかる。
- ② 学校と家庭の連携や連絡については、学級通信や学校だより、HPで随時発信し、学校の今を伝えようとし、生徒もそれらを保護者にほとんど渡している。それに対して保護者からはほぼ同様に学校の様子が「わかる・ある程度わかる」との回答があった。これは昨年度より改善されている。また、昨年度と比べて改善されているが「保護者の声をあまり教育活動に活かしていない」との評価もある。生徒が「学校での様子を家族とあまり話さない」という回答もあるので、学校と家庭とのつながりにまだ不十分な点があったと推察される。保護者としては、学校での様子や個と集団のかかわり、具体的指導等を知ることがやはり大事になる。PTA理事会を昨年までの年2回（7月・2月）から、3回（11月、芦安文化祭時）に増やし、学級担任と懇談できる時間を設定したが、家庭との連携や連絡について、個に応じつつもさらに充実させていきたい。
- ③ 家庭学習や生活習慣に課題がある生徒も少数ではあるが見られる。
- ④ 「地域の行事・活動や組織との積極的な関わり」については、保護者も教職員も肯定的にとらえており、芦安ならではの感じがする。今後も同様な活動を続けていきたい。
- ⑤ 昨年度は「PTA活動は、生徒の教育活動のために有機的に機能していない」との評価がいくつか寄せられていた。今回は未回答が「1」あるが全員肯定的な評価であった。他校にない小中合同のPTA活動が、今後も児童生徒の為に機能していただければと願う。
- ⑥ 小中連携については、本年度も諸行事並びに英会話科を中心として行われ、小中学生の交流も深められてきた。また、小学生の前で中学生が発表することは、ほどよい緊張感がありよい体験となった。行われた行事等は以下の通り。

- ・小中合同避難訓練と引き渡し訓練
- ・教育を語る会
- ・小中連携会議（全教職員 2回）
- ・英会話科推進会議（関係教員 4回）
- ・小中連絡会（管理職等 10回）
- ・芦安文化祭
- ・合同朝の会
- ・イングリッシュゲーム
- ・ハロウィンパーティ
- ・クリスマス会
- ・英語絵本の読み聞かせ
- ・合同合唱
- ・若葉給食
- ・やきいも集会による交流
- ・小中合同地区別集会（2回）
- ・Be Open プロジェクト
- ・6年生の中学校での授業体験&部活体験（予定）
- （新緑・やまぶき祭、ふれあい運動会 への参加）

〔改善策〕

- ① 学校からの発信は今までと同様に行っていきたい。さらに生徒ひとりひとりについて家庭との連絡を密にするために気軽に話ができる環境を作っていく。
- ② 個々の生徒の課題（家庭学習・生活習慣等）については、保護者との連絡を取りながら、学習習慣の定着や健全な生活習慣の育成を図っていく。
- ③ 改善策ではないが、今後も地域の人材の有効な活用や地域行事の参加を通して、地域社会との交流や協力体制に努め、「特色ある芦安中教育の環境整備」を進めていく。
- ④ 児童生徒の交流や教職員同士の交流を図り、小中での課題を共有し、9年間を見通した教育活動を今後も進めていく。中学校職員は小学校の児童を、小学校職員は中学校の生徒を理解する姿勢を持つことが大切である。

（7）その他

- ① 前向きで、積極的に考える生徒が多いが、一旦トラブル等が発生するとこじれて、收拾できなくなる事態は想定される。生徒ひとりひとりの考え方や判断力をより確実なものとして涵養する一方、生徒同士の話し合いや、生徒を中心に置いて家庭・地域（外部機関）・学校での話し合い等を積極的に持っていきたい。
- ② 生徒数・職員数が少ない中で、多くの活動を行っており、一人ひとりの負担は大きい。しかし、本校に魅力を感じて地区外から来る生徒もいるので、本校の教育環境を生かして、更に良い「芦中教育」がなされるように工夫・改善していきたい。ただ活動をこなすのではなく、どんな力をつけさせ、それをどう生かしていくかという長期的な視点でこれらを結び付け、保護者・地域の方々の理解と協力を得て、計画的・組織的に教育成果をあげていきたい。